

檀原市立図書館だより

平成24年3月1日発行
第24号

檀の樹

目次:

檀原文庫連絡会
2～3

このひとにきく
4 5

図書館員の本棚
6

お知らせその他
7～8



檀原文庫連絡会



手づくりのラックに大切に保存されている利用者記録と文庫ノート。
小さな文具のひとつひとつにも、子どもたちとの思い出が詰まっています。

現在の檀原市立図書館が開館した平成8年以前、市立図書館が不在であることから生じる様々な間隙を補完したのが、民間によって担われた地域文庫の活動でした。

児童文学作家の石井桃子さんや松岡享子さんらによって先鞭をつけられた地域文庫の活動が、全国の多数の読書愛好家や団体によって実践されてきたのです。公民館や集会所、あるいは家庭の居間や書斎を開放して担われる、いわば私設のミニ図書室ともいえる取組です。当市においても、昭和40年代後半から、中央公民館図書室の所蔵図書を公民館職員によって各文庫に巡回させる「檀原市移動文庫」が民間と行政の連携として始められたのです。

平成22年秋に奈良女子大学で開催された全国図書館大会奈良大会第4分科会「児童・青少年サービス」の特別報告として、天理市立図書館の高橋樹一郎次長より、戦前から現在にいたる奈良県内の読書活動について解説がされました。「まだ公立図書館の児童サービスが十分に発達していなかった時代、子どもたちの身近な場所にある文庫は、子どもと本をつなぐ地域の拠点として大きな役割を果たしてきた。このように草の根の活動を地道に続けてこられた方々は、子ども読書活動の先駆的な存在として、各地での公立図書館や児童サービスの充実、活性化に大きな貢献をもたらした」と指摘しています。

長年にわたり地域文庫で活動されてきた「みみなし文庫」の勝井立子さん、「ひまわり文庫」の阿部加代子さんにお話をうかがいました。

勝井さん……（檀原市子ども読書活動について） 図書館が開設され、地域のための読書環境も基本的には整備されたと思います。子ども読書活動の取組が始まってからは、行政や教育の関係者とも、子どもたちの育ちと読書について語り合う機会が増えてきたことを、大変好ましいことと思っています。一方で、お互いに善意ではあっても、民間と行政、あるいは職業者と非職業者といった立場の違いから、見解や優先事項、手法といったものが常に一致するわけではなく、苦言を呈してしまうこともあるのですが、誰かが「憎まれ役」を引き受けて問題点を指摘することも時に必要なのでは……とも、感じている次第です。けれども、理解し合うことで距離を縮めてゆくことは可能なはずですし、子どもたちのために私たちおとなが連携を果たすことは必要なことだとも痛感しています。

自治体には独自の図書館があるべきだとの強い願いから、署名活動や自治体関係者との話し合いを重ねていた頃のことを思うと、隔世の感があります。私も人間として歳月を重ねたということですが、子どもたちと本をつなぐ活動をこれからも続けてゆけたら、と思っています。



阿部さん……（ブックスタートについて） 平成15年より、子育て中のお母さんに、絵本の楽しさ、親子のふれあいの大切さを伝えたいと、健康増進課の1歳6カ月健診の中で、本の紹介やふれあい遊びをお伝えしながら、ブックレット「おかあさんおはなしして」を手渡す活動を始めました。ブックスタートが全国的に広がり始めた頃で、先駆的な存在であった熊取町などへ見学にも出かけました。そうした中で、行政の継続的な取組が最も大切であると確信し、子育て支援課、健康増進課、図書館等と話し合いを重ねてきました。

檀原市子ども読書活動推進計画の一環として、ブックスタートが平成20年より事業として始まり、私たちの思いが実りました。事業に関する技量、知識、目的を共有するため、「ブックスタート講座」も開催され、参加スタッフの全員が受講することになりました。

しかし、出発時のスタッフにも交代や異動、新加入などがあり、行政・ボランティアともに、改めて知識や情報の共有や技量の向上のための方策が必要になってきました。関係者が図書館ボランティアのブックスタート班として、子育て中のお母さんの心に届く対応ができるよう研修を重ねたいと思います。



檜原文庫連絡会

<http://www41.tok2.com/home/kashiharabunko/>
(代表) 苑樹 慶子 さん (tel) 27-8098

◀ 檜原文庫連絡会加盟文庫 ▶

かしの木文庫 (菖蒲町第1自治会館別館)	菖蒲町	(tel) 28-1150	木田方
このは文庫(不定期)	雲梯町577-2	22-7464	河合方
正蓮寺文庫	観音寺町598	27-1824	小林方
しらかし文庫(白檜地区公民館)	白檜町	27-8098	苑樹方
杉の子文庫(西池尻町会館)	西池尻町	28-0548	川西方
どんぐり文庫(耳成地区公民館)	葛本町	23-9522	石川方
中曽司南町文庫 (中曽司南町集会所)	中曽司町	23-6346	直本方
ひまわり文庫 (菖蒲町第3自治会館)	菖蒲町4-1-12	27-9571	阿部方
ふじわら文庫	別所町55	22-1844	藤田方
みみなし文庫(コープ耳成)	木原町368-19	29-6868	横手方



平成21年まで毎年開催されていた「文庫まつり」は、子どもたちの大きな楽しみでした。



地域活動の取組事例として、新聞紙上に取り上げられたことも。

檜原文庫連絡会に関わる現在までの流れ

昭和47年5月	「みみなし文庫」が檜原市で初めての地域文庫として自主開設。 公民館図書室からの団体貸出などを基盤として活動を始める。	昭和60年	「しらかし文庫」が伊藤忠財団より助成金(100万円)を受ける。以降、財団系法人より各文庫が順次助成を受ける。
昭和49年	自治会、子ども会などが母体となって市内各地域に文庫が開設された。(計14文庫)	昭和63年	「檜原文庫連絡会」に名称変更
昭和52年	各文庫が連携し「檜原市移動文庫連絡会」が結成される。(計17文庫) 各文庫間の図書移動を担った公民館図書室の事業名称「檜原市移動文庫」に準じて命名された。	平成8年8月	檜原市が市立図書館を開設。現在に至る。
昭和54年	「文庫連絡会ニュース」隔月を発行	平成15年	檜原文庫連絡会が文部科学省の「子どもの読書活動優秀実践団体」を受賞。
昭和56年	みみなし文庫がユネスコより児童図書100冊の寄贈を受ける。以降市内各文庫がユネスコの寄贈を順次受ける。	平成19年7月	文庫連絡会が檜原市子ども読書活動推進計画ワーキンググループに参加。
昭和57年	自主勉強会、文庫交流会を開催する。	平成20年4月	文庫関係者、子育てサークルなどの要望やノウハウも取り入れて、檜原市がブックスタート事業を開始。
昭和58年	月例学習会を始める。自主講演会「親と子のお話作り」講師 堀 真一郎 氏	平成22年10月	文庫連絡会主催「講座 子どもの育ちと読書」講師 福音館書店元編集部長 森 達夫 氏
		平成23年10月	文庫連絡会主催講演会「心の扉を開く読書」子どもの本専門店「メリーゴーランド」店主 増田 喜昭 氏

文庫開設者にきく

読書を取り巻く状況も20年前とは変化しました——。



松下 紀子(まつした のりこ)さん

榎原市在住。榎原文庫連絡会(連絡係)。
平成5年より木原町の自宅で「いこい文庫」を主催。地域の読書活動に尽力。
本年3月末で文庫活動を終了予定。

当館の開館以前より長年にわたって文庫活動に関わってこられたご経験やご実感、その他読書を取り巻くことならについてお話をうかがいました。

—— 松下さんが「いこい文庫」を始められたのは？

—— 平成5年のことでした。当時はまだ市立の図書館がないこともあって、私のところのように自宅の一室をあてた小さな文庫にも、訪れてくれる方が頻繁にあったのです。

—— いこい文庫さんは、榎原文庫連絡会の中ではただひとつ、成人を対象にした存在でした。ところが、今回文庫活動にひと区切りつけられるということで……。

—— 世の中全体が豊かになって、図書館活動や読書活動に対する理解や要求が増大していったという背景と、地域文庫の活動とは無縁ではなかったと思います。ただ、今は文庫だけではなく、例えばほんの少し前までは、どの町でも見かけた個人経営の書店が姿を消していったり、子どもたちの本への関心や興味に変化があったり……。読書を取り巻く状況も、20年前とは著しく変化しているのではないのでしょうか。

榎原市に限らず、各文庫で様々な本やひととの出会いがあったことも確かなことでしょう。その一方で、これは他の文庫の方が話されたことですが、「図書館の蔵書が充実していった、その結果として私たちの文庫の賑わいに変化が生じるとしても、それはある意味で自然なこと……」なのかもしれません。

—— そうした中で、図書館の子ども読書関連の催しや取組に、積極的に関わっていただいています。

—— 文庫の中には、若いお母さんたちが積極的に後継役を引き受けられたり、市民協働課や財団の助成を受けてセミナーを主催されるなど、新しい取組も始まっています。

—— 榎原文庫連絡会さんが主催された講演会、メリーゴーランド店主の増田喜昭さんを招かれた講演会には、文庫連絡会の皆さんのネットワークを活用して、学童クラブの関係者の方々も多数参加され、盛況でした。秋の読書週間に開催された文庫おたのしみ会も、参加者が100名を超えるなど好評でした。

—— 文庫活動はあくまでも市民の自主性や主体性によって担われているため、担い手の事情に左右されてしまう側面もあります。「いこい文庫」の場合、私が単独で自宅でやっているものですから……。ただし、これまでの地域での繋がりがや絆は大切に、近所のお年寄りに気兼ねなく立ち寄ってもらえるサロンのような活動に衣替えしていきたいと思っています。

—— これまでのご尽力、ありがとうございました。

生涯学習部長にきく

関係各位のご尽力に感謝
しています。



岡本 博三(おかもと ひろみつ)

社会教育課長、体育課長等を経て、平成
21年4月より当市教育委員会生涯学習
部長(図書館担当)

本年3月末、定年退職予定。

当館の開館以前より長年にわたって社会教育・生涯学習に関わってきた経験や実感の中から、図書館と読書についてお話をうかがいました。

- 市職員生活の中でも、社会教育、生涯学習に関わってこられた期間が多くを占めます。
- 最初に配属されたのが、当時新鋭施設だった現在の中央公民館(・体育館)でした。市立図書館不在の間隙を埋める方策として、市民の方々の協力を得て移動文庫が始められた時期でした。公用車に積載した児童図書を市内の各文庫に運んだりするのが、新人としての仕事でしたね。社会教育や社会体育への関心から自治体職員を志望しましたので、地域婦人会や自治連合会、文庫開設者といった市民の方々、他の自治体の社会教育主事などと接することができる職場で、社会人としてスタートすることができて幸運でした。若かった私は思慮も足りず、今から思い返すと冷や汗の噴き出す思いですが、移動文庫を支えてくださった皆さんには本当にお世話になりました。子どもたちに貸出をおこなうためには、貸出台帳への記帳、ブラウン方式のブックポケットカードの点検や確認など、独特の作業が必要でした。現在ではバーコードリーダーと端末で一瞬のうちに終了できる電算処理も、30数年前はすべて一冊一冊の手作業、手書きでおこなっていたのです。
- 平成7年に当市で開催された「ロマンピア藤原京創都1300年記念際」では、事務局スタッフとして主軸を担われました。記念祭終了後も、社会教育、生涯学習関連などのご担当が続きました。
- 図書館、ロマンピアホール、こども科学館を内含する万葉ホールの開設事務にも関わりました。私は図書館運営については専門家とはいえませんが、移動文庫の運営や図書館開設に関わった経験から、図書館と読書については、ささやかな所見や感慨があります。
少子化や高齢化が進み低成長時代への移行を余儀なくされる中で、行政を取り巻く環境は厳しくなるばかりです。高成長期に多用されていたとは違った手法や方策を、模索しなければなりません。東日本などでは甚大な災害も発生しました。東北の未曾有の状況に置かれた子どもたちに対して、全国の社会教育や読書の関係者が、図書の寄贈や移動図書館の派遣、読み聞かせといった方策によって寄り添おうとしています。
多数の利用者を集める図書館が、地域の「拠り所」となることができれば素晴らしいですね。物質的な方策が不可欠なのはいうまでもありませんが、しかし、それだけでは不十分です。ひとりひとりを内面から支え、同時に結びつけてくれる「絆」が必要になってくるのではないのでしょうか。図書館が支点のひとつとなることによって、「ひとの輪」を広げてゆく方策を見つけられるはずですよ。
健康増進課や子育て支援課と連携しておこなっているブックスタート、あるいは図書の修理や読み聞かせも、市民の皆さんのボランティア活動によって支えられています。そうしたご尽力に感謝しながら、市民参加と協働による図書館づくりがなされることを願っています。

図書館員の本棚(13)

柳田国男著「遠野物語」 その他

岩波文庫 「遠野物語 山の人生」 他所収本多数

……この話はすべて遠野の人佐々木鏡石君より聞きたり。昨明治四十二年の二月ごろより始めて夜分おりおり訪ね来たりこの話をせられしを筆記せしなり。鏡石君は話上手にはあらざれども誠実なる人なり。自分もまた一字一句をも加減せず感じたままを書きたり。思うに遠野郷にはこの類の物語なお数百件あるならん。……

囲炉裏傍で、朴訥な古老のひとり語りを聴くような、不思議な引力をもつ物語です。例えば、こんな不可解なエピソードが語られます。

……青笹村糠前の長者の娘、ふと物に取り隠されて年久しくなりしに、
〃村の何某という獵師、或る日山に入りて一人の女に遭う。怖ろしくなりてこれを撃たんとせしに……驚きてよく見れば彼の長者のまな娘なり。何故にこんな処におるぞと問えば、或る物に取られて今はその妻となれり。子もあまた生みたれど、すべて夫が食い尽くして一人此のごとくあり。……御身も危うければ疾く帰れというまに、その所在をも問い明らめずして逃げ還れりという。……

直接的に語られているのは、「神隠し」あるいは「山男」伝説なのですが、もちろんそれだけではありません。語り奥底には、人間の歴史が長い歳月のなかで産み落としてきたもの、黒炭のように冷たく固まった遺物ともいべきものが顔をのぞかせています。蝦夷征伐などによる政権勢力の侵攻により追いつめられていった先住勢力の痕跡を、著者は敏感に察知しているのです。同時に、自然主義など近代の手法によって洗練される以前の「裸形の文学」とでもいべきものをも、柳田は読み取っていたのかもしれませんが。

*

そういえば、戦後の復興期に活躍した作家坂口安吾が、エッセー「文学のふるさと」で興味深いことを述べています。愛らしく善良な少女が、おばあさんに化けたオオカミに無残に食い殺されてしまう物語、シャルル・ペローの童話「赤頭巾」のアモラル(※)な結末についてこう記しているのです。

……私たちはいきなりそこで突き放されて、何か約束が違ったような感じで戸惑いしながら、然し、思わず目を打たれて、プツンとちよん切られた空しい余白に、非常に静かな、しかも透明な、ひとつの切ない「ふるさと」を見ないでしょうか。……生存の孤独とか、我々のふるさとというものは、このようにむごたらしく、救いのないものでありましようか。私は、いかにも、そのように、むごたらしく、救いのないものだと思います。……私は文学のふるさと、或いは人間のふるさとを、ここに見ます。……

*

夜、本棚から偉大な惑星たちの著作をベッドに持ち込み、その引力に時を忘れます。

柳田 国男(やなぎだ くにお)
1875～1962、兵庫県生まれ。
東京帝国大学法学部卒。貴族院書記官長。農商務省官僚の傍ら民俗学の調査と研究に打ち込んだ。「石神問答」「山島民譚集」「山の人生」など著作多数。

坂口 安吾(さかぐち あんご)
1906～1955、新潟県生まれ。
東洋大学文学部卒。戦後、檀一雄、太宰治、織田作之助らとともに新文学の旗手として活躍。「墮落論」「白痴」「風博士」など著作多数。

No
Image

「遠野物語 山の人生」
柳田 国男 著
岩波文庫

No
Image

「坂口安吾全集14 FARCE
に就て 日本文化私観 墮落論 ほか」
ちくま文庫

※アモラル
モラルの反意語。模範的あるいは道徳的ではない、という意。



檀原市図書館ボランティアの会 会員の募集

「檀原市図書館ボランティアの会」に、ブックスタート班ができました。

平成19年9月に発足した「檀原市図書館ボランティアの会」は、「修理班」と「おはなし班」の2班編成で活動を続けてきましたが、関係者総意の了解を経て、以下のようになります。

これまで健康増進課、子育て支援課、図書館、ブックスタートボランティアの連携で実施してきたブックスタートをより円滑に実施するために、ブックスタートボランティアを図書館ボランティアの仲間として迎え、ブックスタート班を新設することになりました。これにより、檀原市図書館ボランティアの会は以下の3班編成になります。

檀原市図書館ボランティアの会（会長 西村 洋子さん）

- 修理班 （18名） 内容 汚破損図書の修繕、修理
- おはなし班 （23名） 内容 おはなし室や館外会場でのおはなし会や朗読
- ブックスタート班 （16名） 内容 ブックスタート事業での母子への対面朗読や啓発

すべての活動に参加していただく必要はなく、「修理だけ」、「おはなし班のみ」といった登録で構いません。お問い合わせ、その他登録手続など詳細は図書館までお願いします。



図書利用カードの更新手続について

- ◇ 手続に必要なもの
- ① 図書館利用カード
- ② 現住所を確認できるもの
- ③ （運転免許証や健康保険証など）
- ※ 県外の方は、在勤、在学を証明できるもの

平成23年4月より、3年ごとに有効期限を定めて、住所等の確認をさせていただきます。更新対象の方には、有効期限の60日前から貸出時等にカウンターでお知らせしています。更新をしないと、貸出の他、ホームページや携帯サイトからのログインもできなくなります。

詳細は、来館時にカードをご提示のうえ、おたずねください。

資料展示

「源氏物語の世界」

期間 3月30日(金)まで

場所 2F 展示コーナー

作品展示

「手づくりの絵本たち」

期間 3月30日(金)まで

場所 2F 展示コーナー

No
Image

相互貸借・リクエストを、おひとり月1冊とさせていただきます

平成24年4月1日より、未所蔵の図書を希望される場合、**他館からの相互貸借、新規購入の別なくリクエストとして同様に扱い**、おひとりにつき、月1冊とさせていただきます。

（リクエストの受付は、市内在住の方に限ります。ご用意するのに日数を要する場合や、取り扱い件数が所定の予算枠を上回った場合など、諸般の事情によりご希望に添えない場合があることを、あらかじめご了承ください）

榎原市立図書館

〒634-0075
榎原市小房町11-5

TEL:
0744-29-2121

FAX:
0744-21-1011

http:
[//www.ksh-lib.jp/](http://www.ksh-lib.jp/)

編集後記

退任のご挨拶

光陰矢のごとし、と言う。使い古された寸言に込められた様々な詠嘆に、深い同意をもって頷くしかない。かつて館長補佐として在任した4年間、さらには入庁以来の職歴の歲月をも含めての感慨である。

年たけてまた越ゆべしと思いきや
いのちなりけり小夜の中山 西行

▼源平の戦乱期、東大寺は重衡の兵火により焼失した。大仏の再建には奥州の金が必要だった。その方策のため、歌人として名高かった西行が、はるばる東へ下ることになった。当時西行は60代後半。旅の路傍に若年時の漂泊を振り返った時、感慨もひとときわ深かったに違いない。▼今月末で館長職を退くことになる。終着点を間近にひかえ、つつがなく定年を迎えられることを願わずにはいられない。年齢を重ねると、激しい変転よりは穏やかな安定を願うものなのだろうが、今は西行の気概を念頭に、気持ちを引き締めたい。▼来月以降も図書館に留まる者たちにも、一層の緊張感が求められることになるだろう。変化を望まずにいようと願っても、周囲が許容してくれるとは限らないからだ。変化に適応していくことが、図書館が存続していくための最良の方策なのかもしれない。▼図書館の後進たちに、今後とも関係各位のご指導とご鞭撻を賜りますよう、最後のお願いとさせていただきます。

安井 寿一

奈良-あすかベンチャークラブ 図書のご寄贈 (20万円相当)

奈良-あすかベンチャークラブ(会長 飛鳥井 裕子 さん)の皆さんが、創立20周年の記念として20万円相当の図書を寄贈してくださいました。同クラブは、「国際ソロプチミスト奈良-あすか」の子クラブとして発足した働く女性の奉仕団体です。養護学校や福祉作業所への奉仕活動、フォスターペアレントやユニセフへの協力、クリーンキャンペーンやリサイクル運動との連携など、広範な社会活動に参画されています。加えて、「榎原夢の森フェスティバル」などにも参加し、地元社会との懇親にも積極的に取り組んでおられます。



(地道な取組にも積極的に……5年前の活動から)

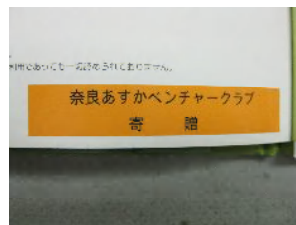
館長 例年のご配慮に加えて、輝かしい節目の年に特別のご寄贈までいただけることになりました。ご尽力に厚くお礼を申し上げます。

会長 私どもは、18歳～45歳までの働く女性のクラブということもあり、少しずつですが、平成16年より毎年、特に女性と子どもたちのための本を寄贈しています。ベンチャークラブの全国大会が榎原市で開催されたその年に、ホステスクラブを務めた私どもより、開催地プロジェクトの贈呈先に榎原市立図書館を推薦させていただいたのがきっかけでした。

館長 当館でも、子どもたちの読書活動の推進という取組の中で、学校や地域の団体など、様々な立場の方々やボランティアの方々との連携を深めようとしているところです。

会長 クラブでは、女性や子どもに関する問題を、身近なものとして受け止めていきたいと考えています。特に今日の女性や子どもたちを取り巻く環境は、やさしいものではありません。DVや虐待など、女性や子どもを取り巻く様々な形の暴力にひとりでも苦しむ人も数知れません。子育てに悩む母親、自分をうまく表現できない子どもたちも多いと聞きます。本を手がかりとして、解決のための情報を得たり、前向きな活力を得たりすることで、一筋の光明を見出すことができるのではないのでしょうか。

たくさんの方々に、有意義な本に接してもらうことを目的に、微力ですが協力を続けてきました。今回の寄贈についても、クラブの認証20周年の節目にふさわしい記念行事になったと、一同喜んでいきます。



表紙の写真

読書への関心は希薄な子どもたちも、紙芝居や読み聞かせは大好きです。地域文庫の世話人によって運ばれた紙芝居。学童クラブの先生が始めた途端、教室の子どもたちが鈴なりにになりました。